

# 令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

## 学校の概要

大阪市立大成小

学校

児童数

26

### 平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	16.44	20.00	36.44	44.00	40.78	10.36	147.44	20.44	52.00
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
女子	15.07	19.64	36.20	41.00	42.50	10.05	144.50	12.64	54.00
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

### 結果の概要

- ・体力合計点において、男子は大阪市の平均を0.46ポイント上回ったが全国の平均より1.02ポイント下回った。特に20mシャトルランの記録は7.16ポイントと低く持久力に課題がみられた。女子は大阪市の平均も全国の平均も上回った。特に20mシャトルランの記録は5.65上回った。
- ・「運動やスポーツをすることは好きですか」の回答は、男子は90.9%で大阪市の平均も全国の平均も下回った。女子は93.4%で大阪市の平均も全国の平均も上回った。男子は、「嫌い」と回答した児童の割合も多く、また1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合も12.5%と高く、体力合計点との関連性も高い。女子は、1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は6.7%と全国、大阪市の割合と比較しても非常に低いことから、体力合計点も高くなったと考えられる。

### これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

- ・これまでかけあし週間を設定するなど運動に慣れ親しむ取り組みを行ってきた。しかし、運動が嫌いという児童の割合が今年度は高くなった。児童が主体的に取り組めるような取り組みを考える必要がある。そこで今年度は運動集会を開催し、学年対抗のドッジボール大会を行った。児童らは異学年との交流で楽しんで活動することができた。またかけあし週間も持久力向上を目指し、本年度は走る時間を3分ほどに短くし、期間を2週間設定した。児童らは自分で目標を設定し、主体的に取り組んでいる姿が見られた。
- ・体力テストの実施種目を低学年から行うことで、種目自体に慣れるよう本年度は取り組んだ。男女ともに50m走、ソフトボール投げの結果が低いので、授業の中で意識的に走る・投げるの活動を増やしたり、様々な競技を行う中で児童らの運動経験を増やしたりしていきたい。

